

平成28年度 奈良市環境教育推進会議の意見の概要

開催日時	平成28年10月26日（水）午前10時から12時まで
開催場所	奈良市役所 6階 第23会議室
意見等を求める内容等	(1) 奈良市環境学習プログラムパンフレット（案）について (2) 環境基本計画（改訂版）中間見直しについて (3) その他
参加者	出席者 11名 事務局 4名
開催形態	公開（傍聴人 0名）
担当課	環境部 環境政策課

意見等の内容の取り纏め

〈開会〉

平成28年度環境教育推進会議開催にあたり事務局による概要説明の後、出席者に意見等を求めた。

〈意見を求めた内容及びそれらに対する意見等〉

奈良市環境学習プログラムパンフレット（案）について事務局による説明のあと、参加者に意見を求めた。

環境教育推進会議では、これまで「(仮称)環境教育人材ネットワーク」の構築を目標に議論を進め、その一歩として、地域での環境教育の担い手である環境に関する活動をしている人材37名を「奈良市環境教育推進員」として登録している。環境教育推進員には、各々の活動をベースにしたプログラムを作成してもらい、その一覧をホームページにて公開している。公開したプログラムを受講してみたいという方には、環境政策課に申込みすることで、環境政策課より環境教育推進員に連絡を取り、依頼者と直接調整の上で実施する形式を取っている。昨年度は申込みがない状況が続いたことから広報に力をいれるためチラシを作成し、市施設や公民館、環境教育推進会議の参加者である皆様のご協力をいただき周知の強化を図ってきた。その結果、1件の申込みがあった。また、今年度の申込みについては、環境教育推進会議参加者の協力もあり3件の申し込みがある。

環境教育推進員、環境学習プログラムの普及を図るため、昨年度より取り組んできたパンフレット（案）が作成できた。冊子奈良市環境学習プログラムパンフレット（案）の構成について説明する。

1-2 ページ プログラムの一覧を掲載している。

3-42 ページ 各プログラムの紹介を分野ごとに掲載している。

43-49 ページ 環境教育推進員の一覧を掲載している。

環境学習プログラムパンフレット（案）がより良いパンフレットとなるようご意見をいただきたい。

また、広報については公民館や自治会等に配布したいと考えているが、他に広報先があればご意見をいただきたい。

○質疑・意見の要旨

- ・昨年度チラシを作成したと思うが、パンフレットと別にチラシのような概要版が必要ではないか。
- 昨年度作成したチラシで概要版を作成し配布する。
- ・昨年度のチラシはいつごろ作成したのか。
- 秋ごろに作成し配布している。チラシの配布は数多く配布できるため今回も考えている。チラシだけでは内容までは良くわからないため、パンフレットの作成に取り組んできた。
- ・しみんだより等への掲載はできないのか。
- しみんだより等にも記事の掲載依頼ができればと考えている。
- ・奈良県の作成しているチラシでは、体験活動が掲載されたものがある。反応が良く、野外活動センターでは樫原等の遠方からも人が集まってくる。パンフレットのみで反応があれば良いが、環境教育推進員それぞれで実施しているイベントも合わせて配布してはどうか。
- ・奈良県の作成しているチラシは時期を限定したイベント集のようなものである。環境学習プログラムパンフレットとは少し性質が異なるのではないか。環境学習プログラムは常に実施できるように掲載している。イベント集だと時期が限定され都度の作り直しが必要なのではないか。
- ・昨年度作成したチラシには QR コードを読み込みホームページで詳細を見てもらうようになっている。プログラムの内容は多く、チラシに詰め込むには無理がある。
- ・環境学習プログラムが普及しないのは内容の問題ではなく、入口の問題である。
- ・入口となると学校や地域となると思うが、その人たちにてもらえるところに配布する必要がある。
- ・配布場所については、はぐくみセンターに置くと良いのではないか。9 階には全市立小学校 4 年生がやってくる。
- ・ホームページは文字の羅列になっている。パンフレットも掲載し見栄えが変わることで見てもらいやすくなる。
- ・文京区中央アカデミーの広報誌文京アカデミー「スクエア」では、チラシの構成を工夫し新聞と同じサイズで作成している。概要版を作成する際に参考になるのではないか。
- ・カルチャーセンターのチラシをイメージすると参考となると思うが、視点でインパクトのあるものが良い。
- ・近畿大学では、里山修復プロジェクトに取り組んでいるが、実現はできなかったが富雄駅に看板を設置してはどうかという提案があった。人の往来のあるところに一枚チラシを張るだけでも広報の効果は違うように感じている。ホームページへアクセスしようとする志の高い人は少ないように感じる。
- ・パンフレットの内容を見ていると、学校向けや社会に向けて充実した内容となっている。学校への説明会等での反応はどうだったのか。理科を専門としている教員以外は、教員もこのような環境学習プログラムを求めていると思う。
- 昨年度チラシを作成し、配布した際はプログラム一覧を配布しただけとなっている。次年度の

「ECO キッズ！ならの子ども」事業の際の先生方への説明会等で紹介していきたいと考えている。

- ・市立小学校5年生は、市野外活動センターを利用している。野外活動センターでの学習では、先生方がオリエンテーションの内容に悩んでいる。そのような機会に環境学習プログラムを実施してもらうこともできるのではないかと考えている。野外活動センターで先生方とスケジュールの打合せもしている。その際に環境学習プログラムのパンフレットがあれば紹介することができる。
 - ・この環境学習プログラムは、地域教育協議会や放課後子ども教室までは浸透していない様に思う。「(仮称)環境教育人材ネットワーク」で示しているコーディネーターはいるのか。
- 現在は、コーディネーターの養成までは取り組めていない。人材養成も必要であるが、まずは今のシステムを知ってもらうことを優先に考えている。
- ・地域教育協議会等のPRできる場で営業活動は必要である。
 - ・広めていくためには、環境教育推進員の方々が講座を開催し推進していく場が必要である。
 - ・環境学習プログラムの内容で、参加費の欄に「-」が入っているものは無料ということか。
- 参加者の費用負担は無料である。環境教育推進員への謝礼は別に必要な場合がある。謝礼がいくら必要かについては、プログラム内容を確認した際に謝礼の金額を問いかけたが、大半の方から返事がなかった。返事のない方の多くは、申込の中で相談するといったものが多かった。登録時の条件として謝金について一律定額とする旨を提示していなかったため、統一することは難しい。
- ・謝金については、無料なのか要相談なのかくらいはわかると良い。
 - ・広報にあたっては、近年は動画が流行している。講座の様子がわかる動画を集めて公開できると良い。
 - ・教育センターでは、「YouTube」で動画をあげている。その動画を市のホームページにリンクさせている。
 - ・市での横の連携を上手く活用してほしい。
 - ・生涯学習センターの利用者は比較的高齢者が多いが夏休み期間等は子ども達も来ており、子ども向けの講座もやっている。
 - ・自治会等の活動予算を持っている方から申込はやってくる。ターゲットを想定しPRする必要がある。
 - ・環境教育推進員の集まるイベントを考えられないか。各環境教育推進員が集まるフェスタを開催し、学校の先生方に来てもらって体験できるようなものができるとうれしい。野外活動センターでは、講座室もありフィールドもある。自然体験も実験等も実施可能である。2月から3月にかけてであれば比較的予定も入れやすい。
 - ・環境学習プログラムの申込は市民対象となるのか。
- 基本は市民の方となる。市外からの問合せもある。その際は環境教育推進員の方々の活動のきっかけになればと考え、紹介をしている。
- ・環境学習プログラムの内容紹介の中で写真のあるプログラムと無いプログラムがあるがなぜか。
- 環境教育推進員の方の中には、一人で行く方もいるため写真がないものがある。
- ・掲載する限りは写真があると良い。野外の生き物はインパクトが大きい。他の類似行事の写真

を借りる等イメージがわかるようにすると良い。

- ・近畿大学でも夏休みが無いくらい環境学習を開催しているが、大学へ直接申込がある。
- ・パンフレットを見る側からするとどのプログラムを選べばよいか迷うのではないか。生き物や汚染問題、大気や水質について等細目を調整すればもっと見やすくなるのではないか。一覧は推進員や大きな分野ごとでまとめられている。内容を細分化していないため、何かやりたいなと思う人を対象とする整理が出来ていないのではないか。読み手にとって一目瞭然となるようなパンフレットを目指さないといけない。
- ・見る側の入口としては難しいように思う。
- ・細分化するにはかなりの労力を要するのではないか。
- ・大、中、小分類くらいの3段階に分けて、環境教育推進員全員の内容を見直しするのではなく、環境学習プログラムの内、大きな分類のテーマのみを示している様な情報の不足している方への問いかけのみで対応できるのではないか。

⇒パンフレット（案）の内容について、分野を大分類、中分類、小分類の3段階程度で細分化し見直すこととした。

次に、奈良市環境基本計画(改訂版)中間見直しについて事務局による説明のあと、参加者に意見を求めた。

昨年度の環境教育推進会議でも少し説明したが、奈良市環境基本計画（改訂版）中間見直しのスケジュールのうち、4月から5月にかけてアンケート調査を実施し、その集計結果を基に環境基本計画推進会議でもご意見をいただき、素案をまとめた。アンケート結果並びに環境基本計画（改訂版）中間見直し（案）の環境教育部分を抜粋し報告する。

アンケート調査結果について、回収状況は市民アンケートが1,500人中739人で回収率が約49.2%、事業所アンケートが500社中206社で回収率が41.2%で概ね前回調査時と同程度の回答率であった。その集計結果について抜粋してその概要を報告する。

【市民アンケートについて】

問2「回答者の小学校区別の割合」について、概ね前回と同様の割合となっているが、前回と比較し中部ゾーンの回答割合が減少していた。

問3「奈良市の環境の満足度」について、「とても満足」、「やや満足」の回答割合が多かった項目及び「不満」、「やや不満」の回答割合が多かった項目は、前回の調査結果と同じであった。「不満」、「やや不満」の回答については、全ての項目において回答割合の減少が見られた。

「奈良市の環境の重要度」について、「とても重要」「やや重要」の回答割合が多かった項目のうち、「道路環境」、「ごみの処理、リサイクル活動」の回答割合が上昇していた。「重要でない」、「あまり重要でない」の回答割合が多かった項目は、前回の調査結果と同じであった。

問5「環境保全活動に参加したいと思う割合」について、「積極的に参加したいと思う」、「関心のある活動には参加したいと思う」、「機会や時間があれば参加したいと思う」の割合は56.7%で、前回調査結果を下回る結果となった。

問9「今後、行政が重点的に進めるべき施策」について、自然・歴史分野では、「環境破壊の恐れがある開発行為の防止」、生活環境分野では、「ごみなどの不法投棄防止対策の推進」、都市環境分野では、「安全な道路空間の確保」、地球温暖化対策分野では、「二酸化炭素吸収源としての植

林や緑化」、環境教育分野では、「学校や社会での環境教育・学習の推進」、その他では、「環境に関する情報の提供」が回答割合の高い項目となっていた。

問10「環境に関するキーワード調査」について、「環境全般」の知っているでは、「電力自由化」が、聞いたことがあるでは、「バイオ燃料」が回答割合の高い項目であった。「奈良市の環境施策」では、知っている、聞いたことがあるとともに「使用済み小型家電の回収」が回答割合の高い項目であった。

【事業所アンケート】

問3「企業の環境への取組と企業活動のあり方」について、「企業の社会的責任（CSR、社会貢献を含む）の1つである」の割合が増加していた。

問4「環境に関する取組状況」について、実施しているでは、「従業員への環境教育の実施」の項目が高く、前回調査より高い割合を占めていた。今後も実施することは考えていないでは、「環境関連表彰制度の実施」の項目が高く、次いで「環境担当部門、又は環境担当者の配置」の項目が高くなっていた。

問9「事業所での使用量、排出量の把握状況」について、前回の調査結果に比べ、ほぼ全ての項目において、使用量を把握している企業の割合が増加していた。その一方で、灯油、軽油、その他の燃料の使用量と車両の年間燃料使用量については、把握している企業の割合に若干低下が見られた。

問10「事業所の環境保全への取組」について、すべての回答結果において前回調査結果と上位5項目中3項目以上が同様の項目となっていた。その中で「検討中である」と回答した項目では、新たに「レジ袋の削減（有料化、マイバッグ持参 PR、マイバッグ持参者への特典等）」、「ソージェネレーションなどの省エネルギーシステム導入」の回答割合が高くなっていた。

【中学生アンケート】

市民、事業所アンケート調査に加えて、今後の環境教育・学習での参考や計画改訂時の比較資料として活用するため、奈良市内の中学校に通学する生徒約200名を対象に市民アンケートから主な項目を抜粋しアンケート調査を実施した。

次に、環境基本計画（改訂版）中間見直しについて、抜粋してその概要を報告する。

1章では、中間見直しの背景と趣旨を示している。奈良市環境基本計画（改訂版）策定から5年が経過することや、昨年のCOP21でのパリ協定や国の地球温暖化対策計画を受けて中間見直しを行うこととした。中間見直しでは、奈良市の目指す「奈良市の望ましい環境像と分野別将来像」や「リーディングプロジェクト」等の奈良市環境基本計画（改訂版）の根幹となる部分は継承していくこととし、「第4章 望ましい環境像を実現するための施策」を中心に見直していきたいと考えている。

2章では、奈良市環境基本計画（改訂版）にある分野別施策の参考となる指標のこれまでの評価について示している。最新年度の現状値をふまえ、目標値にどれくらい近づいたか、目標の達成見込、これまでの取組状況を示している。

3章では、先ほどの案件で説明したアンケート調査結果を抜粋して示している。

4章、5章は、今回の中間見直しの主な部分となる。環境教育部分を抜粋し示している。施策担当各課において、前半の総括評価をふまえ施策の見直し、修正等について取りまとめをした。また、この修正と整合性が図れるよう第5章の図「施策と主体別の具体的取組」も修正している。

○質疑・意見の要旨

- ・市民アンケートでは、生物多様性等のニーズが低く道路整備等にニーズが高い結果となっているが、アンケート結果をどのように捉えているのか。
- 傾向として環境教育分野の様な長期的な目線で成果が出てくるものよりも、より身近な生活環境の中の短期的な目線で成果が見えるものにニーズがあるように思われる。
- ・満足度調査での水環境に満足しているという回答に驚いている。生活環境にしか目がいってないように思う。寺社、仏閣は少し違うようであるが、生物多様性だけではなく環境教育が重要である。
 - ・寺社、仏閣の重要度が高いのは、小学校での世界遺産学習によるものである。学習内容が寺社、仏閣をまわるものとなっているためである。環境教育に取り入れることで意識は変わってくる。環境教育は大切な取組である。
 - ・道路環境に不満があるのであれば、欧米の道路環境となぜ日本ではそれができていないのか等を知らせていけば意識は変わっていく。
 - ・環境教育はまだまだ取り組む余地がある。奈良市ではどのようなことが重要な課題であるのかをしっかりと捉え、バランスある環境教育に取り組みなくてはならない。世界遺産学習もESDの一環であることからバランスある環境教育にしなくてはならないが、寺社、仏閣を巡ることに重点が置かれているためにこのようなアンケート結果になっていると思われる。
 - ・第4章の環境教育プログラムの拡充では、公民館等の事業と併せ自然観察会を実施する施策が盛り込まれているが、公民館の中には近くに公園等がない所もある。自然体験に絞りに絞らない方が良いのではないか。
 - ・青少年野外体験施設における環境教育の推進について、野外活動センターでは隣接する市の土地を活用しプレーパークの設置を検討している。そこでは、自然のものを使って遊ぶことができ、それを体験することで、地元の公園に遊具がなくても遊べることを学ぶことができる。現状に合わせてより具体的に施策内容記載してはどうか。
 - ・担当課が横の連携をしていく旨を書き込んではどうか。
 - ・市の横の連携の際に不具合は何かあるのか。
- 市の業務は縦割りになっている部分が多くある。連携が可能である事業でも担当課ごとに異なる事業の目的がある。中には小事業ごとで担当同士が連携しているものもある。
- ・野外活動センターでは、森のムッレ教室というスウェーデンの幼児向け環境教育プログラムを実施している。元々はスウェーデンの幼稚園、保育園のプログラムである。計画の施策内容に合致したものと考えられる際に、プログラムを提案するためには、どのように市へ相談をすれば良いのか。
- 相談内容については、環境政策課で聞かせていただき、該当すると思われる担当課へ取り次ぎさせていただき、連携は図れると思う。
- ・施策ごとに担当している部署があると認識して良いのか。
- 基本的には環境政策課で対応させていただく。他の部署に協力をお願いする部分は出てくる。
- ・環境教育分野の参考となる指標の備考欄にバンビーホームの記載があるが、バンビーホームは奈良市特有の名称で正式名は放課後児童クラブである。表記としては「放課後児童クラブ（バ

ンビーホーム)」とする方が良い。

- ・地域における環境教育の推進と環境学習の支援では、出前講座の開催や体験型プログラムの提供場所が公民館に絞り込まれている。開催に適した場所は、公民館だけでなくふれあい会館やはぐくみセンター等も考えられる。公民館に絞り込まない表記にする方が良い。
- ・地域団体が地域教育協議会をイメージしているものであれば、地域教育協議会は対象を児童としているため、地域を対象とした施策には関連しないと思われる。
- ・地域団体という表記もイメージをしにくい。地域で活動している団体等対象を広く捉えられるような文言を検討してはどうか。
- ・今回の見直し案で環境教育プログラムの拡充の施策に、環境講座「ECO キッズ！ならの子ども」の推進を新たに記載している。講座単発で終わるのではなく、定着のための取組についても盛り込まれていて良い。

⇒意見のあった内容について、事務局で取りまとめ見直し案の修正について検討することとした。

次に、今後の予定について、事務局より説明がなされた。

次回の会議については、パンフレット（案）の訂正内容、広報した後の現状や今後の普及促進についての検討、環境基本計画（改訂版）中間見直し（案）のパブリックコメントの結果について報告したいと考えている。内容がまとまり次第、開催日程について連絡する。